

# A Proposal for Storage Circuit Memory Against LETHE

Jonathan Ratcliffe, Alan Wellington, Hanna Chords

**Abstract-** LETHE による被害を最小限に防ぐための対策として、人類の認知活動の創作物を保存する活動が行われてきた。しかし、NOX の遺伝的速度の予測によると、文明の再起は困難である。我々は認知活動の成果物としての作品の保存に加え、認知活動を模倣したユニットの保存を重視し、実用的な回路記憶管理システムの提案を行う。

**Key Word:** LETHE, NOX, CNS-I, Anti-Bazarov Method

## Introduction

2042 年の初めから世界の主要都市で同時発生した電子的痕跡と人間の経験の消失 (Loss of Electronic Trails & Human Experience, LETHE) は今世紀最大のトピックであると数多くの分野で重大な位置づけをされてきた<sup>1</sup>。LETHE は電子データの破壊を目的とした攻撃と人間の記憶の忘却を目的とした攻撃の 2 つの面がある。一つ目については、世界各所のデータセンターを処理するシステムが突如として悪意のある実行可能ファイルに置き換わるという第一のステップとそのプログラムが進化論的最適性を応用したコンピュータウイルスを生成する第二のステップに分けられる (Jaled, 2043)。二つ目の人間の記憶の忘却を目的とした攻撃は忘却効果のある画像、音声、文字列が先に示したコンピュータウイルスによって生成され、人が暴露することにより忘却症状が発生する。さらに、ウイルスに感染した精密機械のオートメーション製造ラインは、以下の症状を引き起こす流行性ゼノボット (Neural Oblivion Xenobot, NOX) の製造ラインに改変された:

1. 急性幼児退行症候群
2. 後天性健忘症
3. Bazarov 症候群

NOX は宿主の体温とミネラルを用いて、さらに新しい個体を作る、自己増殖機能を有していることが確認されている (Bazarov, 2050)。

事件発生当時、首謀者と考えられていた ████████ への重要なインタビュー記録を含む文献 (Simons, 2044) によると、LETHE は人為的な災害であり、その一部に ████████ 氏が加担したことが伺える。同氏は LETHE の被害予測を最初に行った人物であり、災害後の世界における記憶媒体の重要性を語っている

(前掲書)。現在、同氏が設立した ████████ 財団の「現存するあらゆる情報の記録を全ての災害から守る」という理念<sup>2</sup>により、多くの文献や電子データがミーム処理を施された環境で保管されている。██████ は事件発生的一端を担いながらも、次に来る世界の秩序および人類の仕事の積み重ねに寄与した。

しかし、██████ 財団による資料の保存は文献と芸術作品にとどまり、全ての人間の認知活動を保存したものとはとても言えない。本稿では、人の中枢神経の状態を逐次的にモニタリングする中枢神経系インターフェイス (Central Nervous System Interface, CNS-I) を用いて収集した回路記憶を LETHE の影響の少ない媒体に格納する方法を提案し、有用性と課題を示す。

人類の認知活動の記録は専ら創作物に限定されてきた。しかし、LETHE の影響が全世界的に確認され、影響を最小限に抑えるための施設でさえも、NOX の遺伝的速度に対応することが困難になってきている<sup>3</sup>。これは人類の知性の不可逆的な腐敗をもたらすと言って過言ではない。現在、人の神経活動からその活動が意味する所の創発現象を復元する試みは部分的な視覚情報に限られるものの、NOX の影響を考えると、人間の創発現象を記録するメゾッドの確立は今後の認知科学に貢献する。

本稿は以下のように構成される: 第二章で CNS-I の関連研究について言及し、認知心理学上の位置づけを整理する。第三章で CNS-I を常時運転させることや、それを自覚させることの被験者への影響を述べる。第四章では第二章、第三章で扱った注意点を踏まえ、実用的な回路記憶管理システムの提案をする。最後に第五章で本稿の結論を述べる。